

平成3年度 和歌山県文化功労賞

こま い のり ひこ
駒 井 則 彦

住 所：和歌山県和歌山市

出 身 地：滋賀県草津市

生 年：昭和5年

◎業績及び経歴

昭和30年和歌山県立医科大学卒業後、母校に勤務。西独フライブルグ大学脳神経外科助手を経て、昭和41年和歌山労災病院に脳神経外科部長として、県下初の本格的脳神経外科をオープン。昭和52年和歌山県立医科大学教授として、脳神経外科を開講した。昭和63年同大学附属病院長に就任し、現在に至る。

研究分野は、脳神経外科。昭和33年に独自の定位脳手術装置を考案し、従来至難とされ成功率の非常に低かったわが国の脳神経疾患に対する手術水準を飛躍的に向上させた。昭和53年には高血圧性脳出血に対する「定位的血腫溶解排除術」を創案、この手術法は現在では、世界各国で普及している。

さらに昭和56年のCT定位脳手術装置、昭和60年のMRI定位脳手術法など新手術法を次々に開発した。

又、昭和57年、従来治療法がなかった遷延性意識障害(植物症)に対して、頸髄硬膜外刺激法を創案し、意識を回復させることに成功した。現在この方法は、わが国のみならず広く欧米でも利用されている。

平成3年には、パーキンソン病に対する自家星状神経節の脳内移植術を創案。日本に10数万人いると言われる難病、パーキンソン病の治療に新しいページを開いた。

この間、多くの脳神経外科医を育成するとともに、県下に脳神経外科診療施設を次々と開設。県民が安心して脳卒中や脳腫瘍等の治療が受けられ

るように尽くしている。

■現在

医学博士

脳神経外科専門医(日本脳神経外科学会)

大学病院問題懇談会委員(文部省)

医療関係者審議会委員(厚生省)

■著書

「外傷外科全集、第3巻頭部」他多数

■主な表彰歴

昭和46年 和歌山県医学研究奨励賞

平成元年 労働大臣表彰